アテナ・フラッグ・コンシェルジュの近況をお知らせ致します。

2020年東京オリンピック大会の開催まで1000日を切りました。
更に、**ラグビーワールドカップ2019日本大会**も開催まで約600日に迫りました。
この度、**2020年東京オリンピック1000日前イベント**として、10月28日から11月5日の間、**毎日新聞東京本社(パレスサイドビル)**の壁面に**国際オリンピック委員会加盟206カ国の国旗デコレーション**が実施されましたが、**この国旗の制作・取付は毎日新聞社からアテナ・フラッグ・コンシェルジュが委託を受けて行いました。**
そのイベント記事が毎日新聞に2日間(10月28日、30日)にわたり掲載されましたので、プリントしたものを同封いたします。

**ラグビーワールドカップ2019日本大会**では、国内12会場(競技場)における観戦客動員を一層上げるソフト・ハードのツールやグッズを提供して、**開催地の県民や市民を盛り上げながら、観戦客を限りなく動員するために、わが社は地元の方々を楽しませながら結束する、応援団結成支援サービスをサポートいたします。**

アテナは国旗提供の目的をメインとして、日本の歴史的レガシー構築のために大会までオリジナルツールとグッズを駆使して、その**ハタ振りツール**を生かした応援団結成支援サービスの本格的な営業活動をいよいよ展開いたします。
これからもご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

株式会社アテナ

# 2020年東京オリンピック

毎日新聞社の五輪開幕１０００日前ビルドレッシング

## Atena Flag Concierge

**10月28日（土）～11月5日（日）**

**パレスサイドビルを206ヶ国の国旗デコレーション！！**

2度の台風に見舞われながらデコレート。

**'壮観' '素晴らしい'**

と多くの方にご覧いただきました。

国旗の提供・設営までアテナ・フラッグ・コンシェルジュが担いました。

株式会社アテナ

東京五輪開幕1000日前に合わせてパレスサイドビルに飾られた１０Ｃに加盟する206カ国・地域の旗＝東京都千代田区で27日、西本勝撮影

デジタルプラス　写真特集と動画

# 世界は一つ

## 東京五輪まで1000日

２０２０年東京五輪は28日、開幕まで１０００日となる。毎日新聞社は27日、記念行事「国旗デコレーション」で東京本社のパレスサイドビル（東京都千代田区一ツ橋）の壁面に国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）に加盟する２０６カ国・地域の旗を装飾した。色鮮やかな旗は平和の祭典への願いが込められている。（15～18面に特集、スポーツ面、社会面に関連記事）

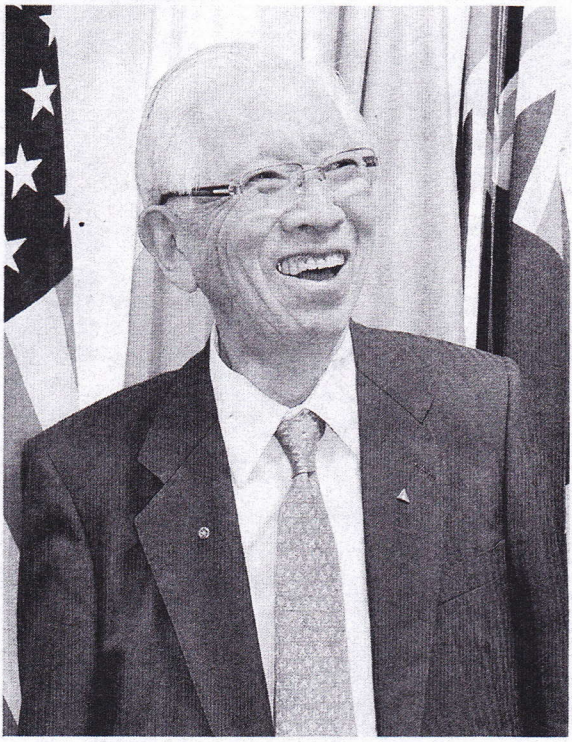
五輪の入場行進のようにギリシャから開催国の日本までアルファベット順に窓枠ごとに布製の旗（横２１０センチ、縦１４０センチ）を横35枚、縦６枚ずつ並べた。取り付けは23日夜から27日未明まで行われた。11月５日まで掲げられる予定。１９６４年東京五輪で毎日新聞社は公募で「世界は一つ　東京オリンピック」の標語を選び、提唱した。装飾では当時の思いを再現して「世界は一つ　東京２０２０　オリンピック」と添えた。【田原和宏】

# 国旗の仕事にロマン

## インタビュー 最前線

ダイレクトメール（DM）の企画制作、発送代行から出発したアテナ（東京都江戸川区）は、物流やデジタル印刷、コールセンター運営なども手がける企業に発展し、来年、創業50周年を迎える。社名の由来は「宛名書き」。「たより（便り、頼り）になる会社」の看板を掲げる同社の歩みを、創業者の渡辺順彦会長（81）に聞いた。

【聞き手・山口一朗、写真も】



アテナ

**渡辺順彦** 会長

わたなべ・よしひこ　1936年、静岡県生まれ。61年、中央大法学部卒。製薬会社に就職し、顧客データ管理に従事したが、外注化を機に独立。68年にアテナを創業、社長に就任し、2003年から現職。

――創業のきっかけは？

◆大学を卒業して就職した製薬会社で、毎月100万通のDMを出す担当をしていました。やがて、この仕事を外注することになり、探してきた外注先の会社に通って現場監督をしているうちにスカウトされて転職。製薬会社の下請け業務を軌道に乗せ、顧客開拓をしていたところ、勤務先の社長から「（事業拡大の）夢を描いているなら、独立していい」と言われ、当社が誕生しました。

――会社創立50年で「DM、物流、コンタクトセンターのエキスパート」の地位を築かれました。

◆顧客管理を事業の基盤に位置付けた結果、そこから派生して、お客様から「カタログセンターをやってくれ」「コールセンターを作ってほしい」などと頼まれ、うまくマッチングできました。時流に乗ったのも、非常に運が良かったと思います。今は息子（渡辺剛彦社長）の代になって、デジタル技術を駆使したマーケティングビジネスにも力を入れています。

――ユニークなのは、国際会議やスポーツ大会などで使う国旗を取り扱う会社としても知られることです。

◆創業間もないころ外務省の資料発送の仕事を請け負っていたことがきっかけです。国賓の送迎やセレモニーでの旗の設営などで、力仕事をする人が不足しているというので引き受けました。その延長で旗に関するさまざまな仕事を依頼されるようになりました。

――世界的なイベントでも実績を作っています。

◆最初の大きな受注は1970年の大阪万博。77カ国の国旗をうちが調達し、セレモニーなどで掲揚しました。サミット（主要国首脳会議）、沖縄海洋博、愛知万博などもありました。スポーツ大会では、一番大きなものは2008年北京五輪です。国旗の取り扱いは、間違いの許されない、大変厳格な仕事ですが、お客様のあらゆるニーズに応えるというアテナのブランド力の原点であると位置づけ、今も私が関与しています。

――今後の抱負を教えてください。

◆旗の仕事にはロマンがあります。日本では19年のラグビー・ワールドカップ、20年の東京五輪・パラリンピックがあります。子どもたちが、スマホやタブレットで楽しく国旗や国歌が学べる教材やアプリケーションを提案していこうと思います。